

# 地域と協働・連携するPTA活動

## ～地域とのつながりを今こそ～

愛知県瀬戸市立水野中学校PTA

会長 鈴木 勝也

### 1 はじめに

#### (1) 地域と学校について

瀬戸市は愛知県の尾張北東部に位置する人口約12万7千人の市です。古くより焼き物のまちとして栄え、毎年9月には「せともの祭り」が盛大に行われています。また、近年では、将棋の藤井聡太棋士の出身地として、地元を挙げて応援している様子がメディアでもよく伝えられています。

水野中学校は市内北西部にあり、昭和55年に開校、今年度45年目を迎える学校です。学区は山や田畑に囲まれたのどかな地域である水野小学校区と、比較的新しい住宅造成地である西陵小学校区の2つの学区から成っています。愛知環状鉄道中水野駅があり、名古屋市のみならず、豊田市や岡崎市へのアクセスがよいことから生徒数は増加傾向にあり、令和6年度の生徒数は590名、学級数20（含む特別支援学級3）の学校です。「立志・礼節・鍛練」の校訓のもと、一人ひとりが個性を発揮し、保護者、地域の方々から温かく見守られながら穏やかに学校生活を送っています。



見直しを行い、スリム化を図ってきました。忙しい中学生の親世代も当然忙しく、役員や係だからといって、頻繁に時間をとられることは非常に負担が大きいです。従って、負担が少なく、かつ子どもたちの健やかな成長へつながる取組を行うためのPTAとして、変容してきました。

地域との関わりの観点から見ると、小学校は見守りボランティアや地域の方を講師に招いた授業など、地域の方々と密接に関わりをもちながら学校生活を送っています。それが中学校に入ると途端に関わりは薄くなり、地域と中学生との距離が遠くなってしまいます。いろいろとつながりをもちたいのに中学校は敷居が高いと感じている地域の方もみえるようです。

しかし、子どもの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域が協働して多くの目で子どもたちを育てていくことが不可欠です。PTA活動をスリム化した今だからこそ地域の力にも再度目を向け、家庭と地域全体で子どもたちの健やかな成長を願い、取り組んでいくことが必要だと考え、実践を進めました。

#### (2) PTA組織の改編と活動の見直し

##### ア それまでのPTA活動

本校のPTAは役員（11名：含教員4名）を中心に、常任委員、地区委員の約60名が次の4つの部に分かれて活動を行ってきました。

**厚生部** … 交流活動、研修旅行

**教養部** … 研修活動、教養講座

**広報部** … 情宣活動、広報誌作成

### 2 研究への取組

#### (1) 研究のねらい

生活様式の変化やコロナ禍を機に水野中学校のPTAも組織改編や活動内容の

**健全育成部**…教育懇談会、  
あいさつ運動

これらの部局がそれぞれの行事の企画から当日の運営まで行うため、担当の活動の際には仕事を休んで参加したり、人数に縛りのある活動での参加者集めをしたりしなければならず、非常に負担が大きいものでした。

**イ 主体的な組織へ**

令和4年度より地区委員と常任委員を廃止しました。また、役員については、事前にアンケートを行い、「やってもよい」と答えていただいた保護者を中心に構成しています。

活動方針として、

- 学校・家庭が一体となって生徒の健全育成の環境を整えよう
  - 無理なく、そして誰もが参加できる主体的な活動を目指そう
  - 地域との交流を深め、積極的に地域の教育力を活用しよう
- の3点を柱に据え、取り組むことにしました。

**ウ 主体的な活動へ**

地区委員と常任委員の廃止に伴い、4つの部局も廃止しました。慣例で行われていた活動内容を見直し、「子どものために直接つながる」活動をその年の役員で相談して行っていくことにしました。それぞれの活動は役員会で相談して企画し、実際の活動はボランティアを募って行う形へと変更しました。

**3 実際の活動内容**

**(1) PTA活動**

**ア あいさつ運動**

PTA役員と地区委員で割り振る形での活動をやめ、完全ボランティア制としました。昇降口前でのあいさつ運動の後、時間に余裕のある方には、校舎内を回って朝の活動の様子を見ても

らったり、登校途中の交差点で中学校の先生や地域のあいさつボランティアと一緒にいたり、さまざまな形をとって活動しています。



**イ 水野まつり**

学区の小学校で毎年開催されていた「水野まつり」が5年ぶりに開催されました。水野中学校としてはこれまでPTAのOB会が出店しており、そこに現PTA役員も参加していました。令和5年度は中学生や卒業生がボランティアとして参加することになり、PTA役員は来られる人の中で時間を区切って担当しました。中学生や卒業生はいつもとは違った側での関わりとなることが大変興味深かったようで、時間を忘れて活動していました。また、小さな子への対応もすぐに慣れ、手際よく対応するため、大きな力となりました。



**ウ 環境整備活動**

活動を精選していく際、役員の中から挙がったのは「直接子どものためにつながる活動がしたい」という声でし

た。そこで、研修旅行や講演会のような活動は行わず、かわりに生徒がいるときにはなかなかできないエアコンフィルターの清掃活動を行うことにしました。当日ボランティアとして集まった方々を中心に、役割分担をしながら行いました。令和6年度の活動では、保護者とともに生徒が参加したり、卒業生を含む家族で参加したりと、少しずつ軌道に乗って広がりを見せつつあります。



## エ 制服リサイクル

不要になった制服や体操服を集め、制服リサイクルを行っています。制服が小さくなってしまったけれど卒業前に買うのはためらわれるという方や、洗い替えが必要だという保護者からは大変好評をいただいています。瀬戸市では令和5年度からブレザー制服が導入されていますが、「子どもがセーラー服を着たがっているからありがたい」と言って、セーラー服を持ち帰る保護者もいます。

## (2) 地域との連携

### ア 子どもを育てる連絡協議会

水野地区の子どもたちの健全な育成を目指して、学区内の幼保・小・中・高校の校長先生や園長先生、PTA役員、少年センターや自治会長、民生委員など、地域に関わる諸処の団体の方々が集い、学期に一度開催している会合です。学校・家庭・地域が横の連

携を図りながら、子どもたちを守り、愛情を込めて育てていける地域環境づくりを目指して、情報を共有し、地域で子どもたちを見守っています。

### イ 少年センターによる

#### あいさつ運動

PTAのあいさつ運動とは別に、式日などに、少年センターの方々があいさつ運動を行ってくださっています。水野中学校には、生徒が主催するあいさつ運動もあり、これらを合わせると、かなりの回数あいさつ運動を行っています。登校してくる生徒も、さまざまな人にあいさつをすることにすっかりと慣れ、年々さわやかなあいさつができるようになってきています。

### ウ クリーン活動

1年に1度、水野中学校の生徒がクリーン活動を行っています。朝、ゴミを集めながら登校し、そのゴミを学校で分別しながらゴミ削減に関する意識を高めていくことを目的に行っている活動です。クリーン活動前日には、地域の社会福祉施設で作られた軍手を少年センターの方々が昇降口前で生徒に渡し、生徒は当日その軍手を使ってクリーン活動を行っています。また、少年センターの方々は生徒とともにゴミの収集や分別を手伝ってくださっています。



### エ 農業体験活動

特別支援学級の生徒が地域の方の田

んばをお借りし、田植えの体験を行いました。地域の方に協力していただきながら稲刈りや餅つきまで行い、米作りについて学んでいます。餅つきで使用する量以外の餅米は生徒が分量を量って小袋に分け、個人懇談会で学校を訪れた保護者に販売実習を行いました。餅つきに関しては、ノウハウがないとなかなかできませんが、準備段階から多くの地域の方が手伝ってくださり、盛況に行うことができました。



### (3) 学校から地域へ

前述した「水野まつり」をはじめ、「西陵まつり」や地域の「ふれあいまつり」の際にも、水野中学校の吹奏楽部が演奏を披露し、まつりに彩りを加えています。演劇部は、学区の保育園やデイサービスへ出向き、演劇を披露したり、そこでの関わり活動を行ったりしています。また、さまざまな部活動において、小学生の児童と合同練習を行い、いっしょにプレイしたり技術指導をしたりしています。このような活動は子どもたちの地域への参画意識を高めることにつながるとともに、地域に学校を知ってもらう機会にもなります。子どもたちの活動が地域に還元できる機会を今後も増やしていきたいと思っています。

## 4 学校運営協議会を受けて

令和6年度より、水野中学校区ではコミュニティ・スクール制度が導入され、学

校運営協議会が発足しました。

水野ブロックには、地域のために活動している団体が多く存在し、子どもたちの安全や健やかな成長のために活動してくださっています。これまで、地域は地域、PTAはPTAと、それぞれに活動してきたことを、今後は学校協働活動として、学校、家庭、地域全体で取り組む組織にしていく予定です。PTAの活動も、地域と一体となって活動し、盛り上げていきたいです。学校運営協議会が、それぞれの団体や地域と学校・PTAとの橋渡しの役割ができるようになっていければと思っています。

## 5 成果と今後の課題

PTAとしての活動自体はスリム化し、負担のない形へと変わってきています。保護者への案内は連絡配信ツール「tetoru」を用いて知らせ、活動後はホームページにその様子を配信することで、PTA活動状況をタイムリーに伝えています。それにより誰にでも気軽に参加できる組織へと変わりつつあります。

また、地域の力を借りることによって、学校と地域の協働活動は以前より増えてきていると感じます。実際に、地域力向上委員会の方々からの申し出で、中学校の定期テスト時期に地域交流センターの一室を勉強スペースとして設けてくださったこともあります。家に帰ってしまうとなかなか勉強できないという生徒にとって、学校帰りにそのまま寄っていける学習の場があることは、大変ありがたいことでした。向上委員会の方々が交代で部屋について生徒の学習の見守りも行ってくださいました。普段はなかなか交流できない地域の方との直接的な関わりもできました。

今後は、負担軽減を図りながらも、「参加しやすい・参加したくなる」活動を考えていき、学校、家庭、地域が一体となった魅力あるPTA活動を行っていきたいと思います。